



2025年7月9日掲載

インフレ率と賃金上昇率の追いかけあいが続く

日本の5月の名目賃金上昇率は、ボーナスを含まない基本給について2%程度の上昇で、勢いは横ばいです。2025年中は2%以上の賃金上昇が続くと予想してよいでしょう。

問題は、インフレ率もなかなか低下しないことです。もう少し早めに落ち着くと想定していましたが、時間がかかっています。

賃金上昇率がインフレ率を抜けば、人々の消費マインドが改善しそうですが、なかなかそうなりません。現状ではインフレ率が賃金上昇率より2%程度も高い状態なので、給与が名目上上昇しても、消費者は気持ちよく消費したいとは思わないでしょう。

しかし、これから年末に向かってインフレが落ち着くという見方は変わっていません。まず、コメを含む食料価格の上昇は一服しそうです。これまで値上がりした製品の価格がいったん横ばいになれば上昇率は低下します。また、一時的な要因ですが、高校授業料無償化や光熱費の補助などの政策効果も現れるとみています。

一方で、25年春闘のベースアップの効果はまだ少し勢いが残るとみており、これからしばらくすると消費者の元気がさらに回復するとみています。日銀が追加利上げするとしても年内に1回、現行の政策金利0.5%を0.75%に引き上げる程度のゆっくりしたペースだとみており、住宅ローン金利の上昇は限定的でしょう。

緩やかな円高圧力はあるそうですが、住宅、旅行などの国内消費関連や、活躍の場が広がる銀行、不動産業種が株価指数上昇に貢献するとみています。

(日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》